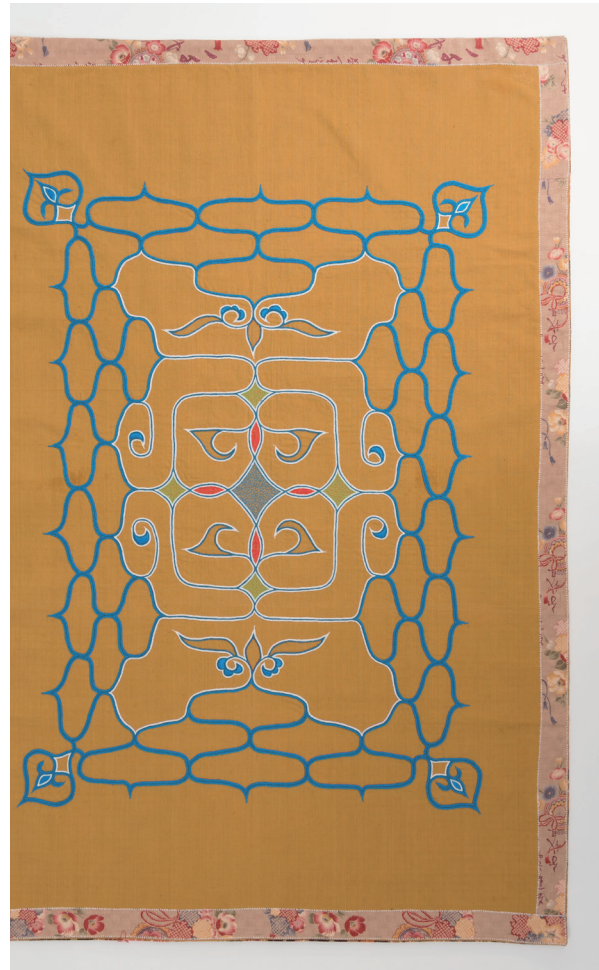


# 刺繍

美しい刺繍は、アイヌ民族の衣服が持つ最大の魅力です。女性達は、上手な人をお手本に刺繍の技術を磨き、伝えてきました。西洋刺繍と同じような技法が使われていますが、文様はひとつずつ作るのではなく、複数の文様にまたがって一筆書きのように刺繍していきます。

本州方面との交易により木綿の布や糸が手に入りやすくなると、樹皮に替わり木綿の衣服が多く作られるようになりました。女性たちは色とりどりの木綿糸で刺繍をほどこし、腕を競い合いました。



アイヌ文様といっても、さまざまなパターンがあります。

伝統的な文様を基本としながら、作りてはその組み合わせをアレンジし、個性を表すものです。

文様をほどこすことで魔除けになるとも考えられていたため、多くの生活道具や衣服に文様が入れられました。

美しくほどこされた文様は自分を表現する手段であり、心を伝える言葉でもありました。

右：タベストリー A 200,000 円【間宮喜代子】  
 中上：ポーチ 大 5,000 円／中 4,000 円／小 3,000 円【石井美香】  
 中下：ブックカバー 3,000 円【長縄由加利】  
 左上：タベストリー C 100,000 円【間宮喜代子】  
 左下：バック 中各 8,500 円／小 6,500 円【間宮喜代子】

【刺繍の手法】  
 チヂリ：名刺入れ 3,000 円【長縄由加利】  
 カバラミブ：タベストリー B 47,000 円【間宮喜代子】  
 ルウンベ：今回はお取り扱いございません

## ▼ 刺繍の手法



**チヂリ**  
 布など置かず、直接刺繍だけで装飾を仕上げる手法。



**カバラミブ**  
 土台となる布の上に、白い布を重ねて形を切り抜き、輪郭を折り込みながら縫い付けていく手法。



**ルウンベ**  
 テープ状に切った布を折り曲げて文様の形になるように置いていき、その上から刺繍をほどこす手法。